

ネームを考える

今回からいよいよ実際にマンガを描いていきますが、だいたいマンガは以下の流れで制作されています。

マンガ制作の流れ

- ① ネーム(コンテ) を考える
- ② 下描きする
- ③ ペン入れする
- ④ 集中線や効果線を入れる
- ⑤ トーンを貼る
- ⑥ セリフを入れる
- ⑦ 完成

新規作成で原稿用紙を用意したら、次はネームです。

どんなマンガにするか考え、どんな風に話をすすめていくか、シーンの見せ方はどうするか…そういうことを考えながら、ページにマンガの設計図「ネーム」(もしくは「コンテ」と言う場合もあります)を描いていきます。

最初は身近にあるネタで

さて、いきなり「マンガを描きましょう！」って言われても、初めてマンガを描く場合は、「どうしたものやら…」だと思います。初めてマンガを描く時は、最初から「超大作を描いてやる！」と気張って原稿に向かうのではなく、気楽に「**身近にあったネタになりそうなこと**」を「**マンガにして友人に伝える**」くらいの気分ではじめるといいと思います。このネタをどういう風に表現すると見ている人を驚かせることができるか? どういう風にすれば効果的にオチがつくか…友人に面白おかしく話して聞かせるような気分でやると、気軽にマンガ制作にチャレンジできるのではないのでしょうか?

ここでマンガの描き方について説明できるのはここまでなので(筆者の技量的にも)、もっと詳しくマンガの描き方を知りたい人は、発売されているマンガの描き方の入門書に一度目を通してみるか、株式会社アスキー・メディアワークスから好評発売中の、**平井太郎先生著の『あなたもマンガが描けるComicStudio 4.0 公式ガイド』**※を読むとComicStudioの使い方とマンガの描き方の両方が一度にわかってお得です。

そんなわけで、なんとなくマンガのネタを考えたら、実際にネームを切ってみたいと思います。

※『あなたもマンガが描けるComicStudio 4.0 公式ガイド』

著者 : 平井 太郎

発売日 : 2007年11月29日(木)

価格 : 2,415円(消費税込み)

発行・発売 : 株式会社アスキー・メディアワークス

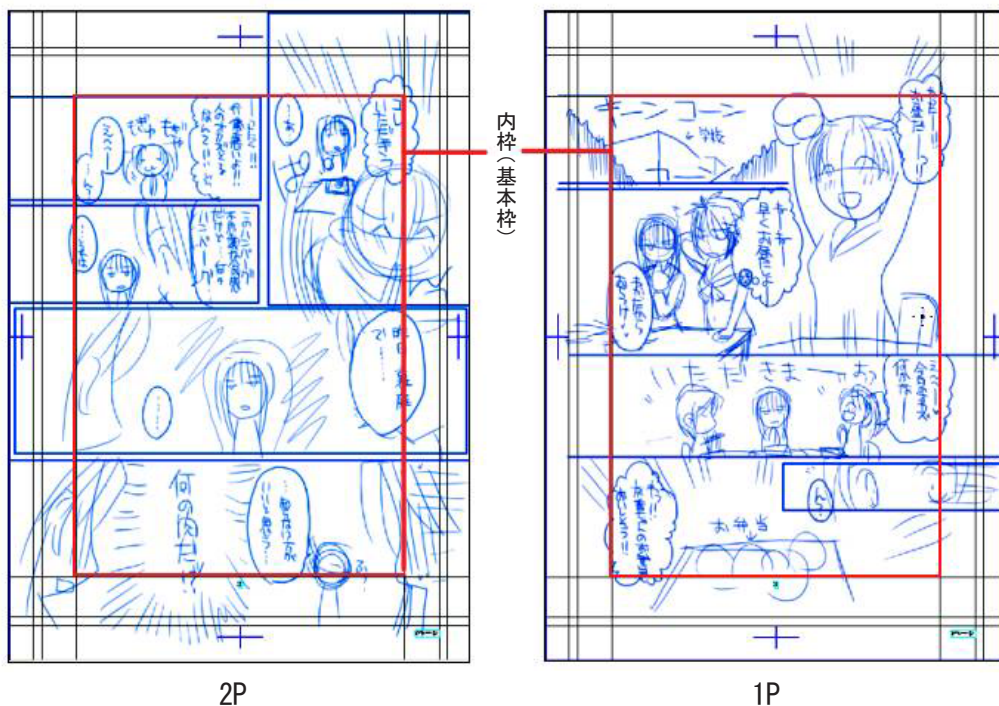
紹介ページ : <http://www.comicstudio.net/news/info/0010/index.html>



ネームを切ってみる

それでは、実際に考えたネタをもとにComicStudioでネームを切ってみたいと思います。

ネーム完成イメージ

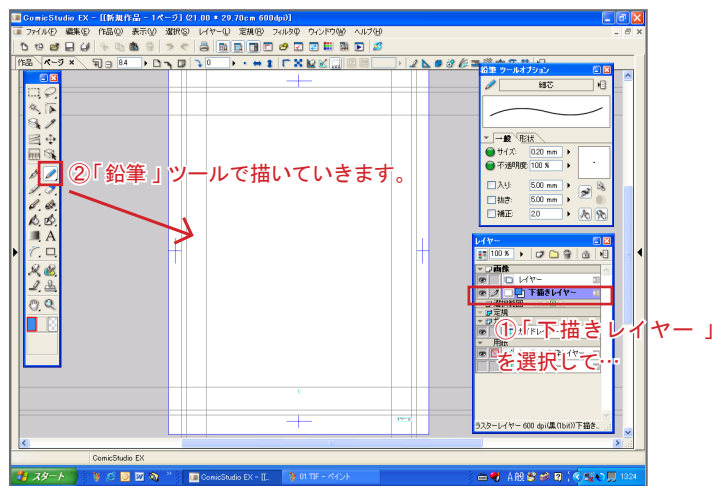


ネームなので、あまり細かく描きこむ必要はありません。セリフは内枠におさまるように入ると、印刷のとき安心です。

ネームの完成イメージはこんな感じです。ざっくりと、どんな感じのページにするか？そういうことを描き込んでいきます。この時、ちょっと注意しておきたいのが、セリフの位置です。セリフは内枠(基本枠)の中におさまるようにすると、印刷に出したりするときに切れたりしません。

新規作成で作品を作り、1P目をダブルクリックするとページが開きます。ページを開いてから、レイヤーパレットを見ると、すでに2枚のレイヤーが作られているのがわかります。この、下の水色マークがついていて「下描きレイヤー」と書かれているレイヤーを選択し、ツールパレットから「鉛筆」を選んでネームを描いていきます。

この、水色マークのついたレイヤーが「下描きレイヤー」。ネームや下描きに使用するレイヤーです。



Point

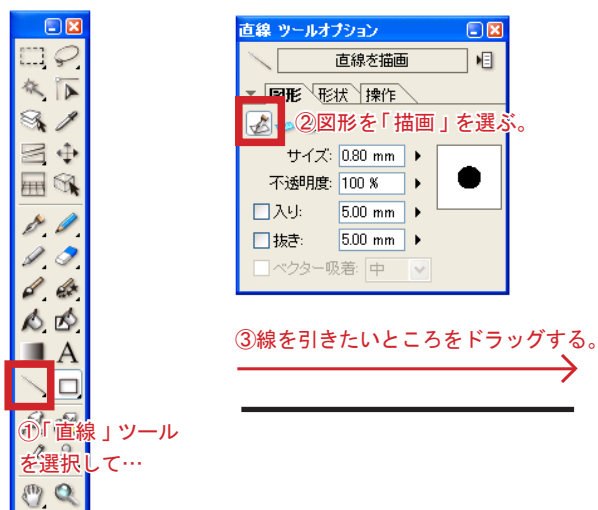
レイヤーの種類

ComicStudioでは、下描き・ネームは「下描きレイヤー」、ペン入れは「仕上げレイヤー」と分けることによって、印刷や出力時に下描きだけ出力しないようにしたり、下描きレイヤーに描かれているものを無視して選択範囲を作ったりすることができます。たいしたこともなさそうですが、これが慣れてくればくるほど地味に便利！そんなわけで、下描き・ネームは「下描きレイヤー」に描くことをオススメします。

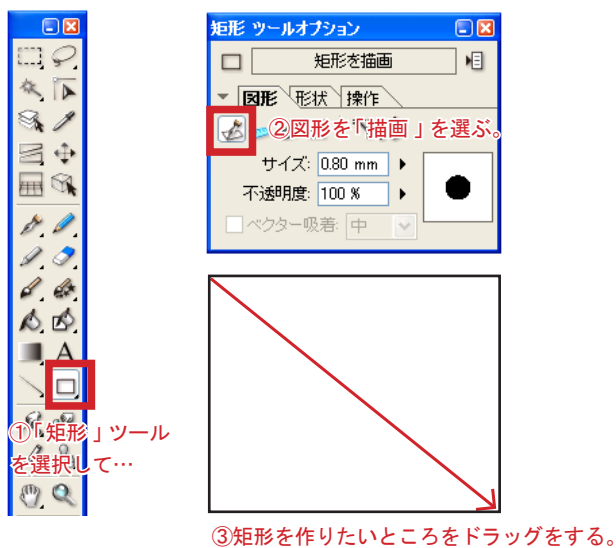
鉛筆ツールで描いて、間違ったら消しゴムツールで消して…

もし、コマの枠をちょっとキレイに描きたい時は、「矩形」ツールや「直線」ツールを使うと便利です。

直線ツール



矩形ツール



そんな感じでネームを描いていきます。ネームが完成したら、しっかり保存しておきましょう。

「ファイルメニュー」の「保存」で保存することができます。

作業中は何がおこるかかわからないので、保存はこまめにしておきましょう。

さて、ようやくネームが完成しました。次回はそれを元に下描きをしていきたいと思います。